

2026 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域 選抜試験（夏季）
博士前期課程（一般・社会人）（4月入学）

科目 ＜専門科目＞
時間 1 2 : 3 0 ～ 1 4 : 3 0

- 注意事項：①問題の選択にあたっては，最初のページの冒頭の説明をよく読んで解答しなさい。
②解答は，配布された答案用紙 1 枚ずつに，選択した問題 1 題ずつを別々に解答しなさい。
③答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を，「氏名」欄に「氏名」を，「題目」欄に問題のコード番号を記入してください。
④解答は，問題に指示がない限り日本語で行うこと。
⑤監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他，監督者の指示に従うこと）。

受験番号	一般 ・ 社会人	氏名
------	----------	----

以下、 6 0 1 から 6 1 3 まで 13 個のコード番号について、それぞれ問題があります。

これら全 13 問（13 コード）の中から 2 問（2 コード）を選択して解答しなさい。

ただし、第一希望とした教員のコード番号の問題は、必ず選択すること。また、1 問につき答案用紙 1 枚に解答すること。

教員コード

山村 崇	601
伊藤 史子	602
饗庭 伸	603
市古 太郎	604
朝日 ちさと	605
奥 真美	606
白石 賢	607

松井 望	609
長野 基	610
大槻 茂実	611
杉原 陽子	612
山本 薫子	613

601

以下の設問全てに解答しなさい。

- (1) 日本における「都市再生」について、その意義と、課題点に言及しながら、600字程度で説明しなさい。ただし、以下のキーワードを全て用い、それらには下線を引くこと。

キーワード：都市再生特別措置法、国際競争力、インセンティブ

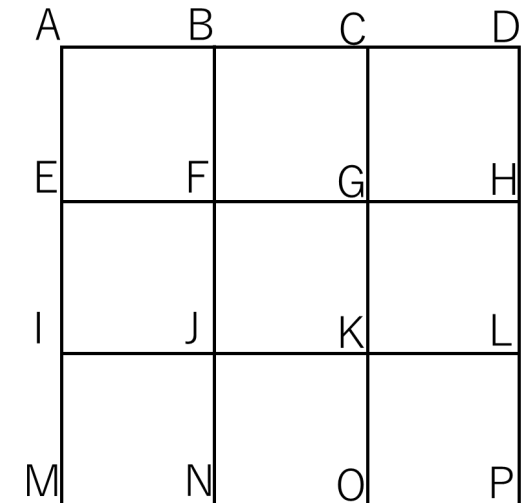
- (2) 以下の取り組み(①, ②)について、「都市再生」に関連して実施することの意義にふれながら、それぞれ400字程度で説明しなさい。

① 賑わい形成

② エリアマネジメント

右図は、道路ネットワークが格子状になった町を表している。各区間の移動コストは1である。ここで、いずれの世帯も配置された施設すべてを利用し、世帯から施設へ最短距離で移動する。利用頻度を加味した世帯-施設間の移動距離の総和を、この町の「総移動コスト」と定義する。以下の(1)から(3)に答えなさい。

注：解答には結果だけでなく導出過程も示すこと。解答には日本語または英語を用いること。



- (1) 16世帯が格子点A～Pに1世帯ずつ分散居住しており、2つの施設が格子点A、Pに配置されている。いずれの世帯も2施設を同じ頻度で利用する（施設それぞれの利用頻度が1）として、総移動コストを求めなさい。

- (2) 町のコンパクト化について以下のア、イ、ウの3つの場合を考えよう。

ア：2つの施設が格子点A、Pに配置され、16世帯が4世帯ずつ格子点F、G、J、Kに集中居住している。いずれの世帯も2施設を同じ頻度で利用する（施設それぞれの利用頻度が1）として、総移動コストを求めなさい。

イ：16世帯が格子点A～Pに分散居住しており、2つの施設が格子点F、Kに配置されている。いずれの世帯も2施設を同じ頻度で利用する（施設それぞれの利用頻度が1）として、総移動コストを求めなさい。

ウ：16世帯が格子点A～Pに分散居住している。各世帯の利用頻度が $(1 - m)$ である2つの施設が格子点A、Pに配置され、利用頻度が m である2つの施設が格子点F、Kに配置されているとして、総移動コストを求めなさい。ただし $0 < m < 1$ とする。

- (3) 上の(1)と(2)から得られた結果をもとに、町のコンパクト化のありかたを論じなさい。

以下の（１）（２）（３）（４）（５）の各課題に対応するため，都市計画やまちづくりで使われる具体的な理論や方法（法制度や事業手法），およびその詳細をそれぞれ300文字程度（英文 150words 程度）で解説しなさい．なお，各々の課題に対して複数の理論や方法があるが，全てを網羅する必要はなく，１種類以上の理論や方法の解答で構わない．また，日本固有の理論や方法である必要はない．解答には日本語または英語を用いること．

- （１）既成市街地における空き家の解消
- （２）非計画的な開発による市街地のスプロール化の防止
- （３）住宅地の設計における歩車の分離
- （４）地方都市への人口の分散
- （５）都市に暮らす人の健康の増進

次の（１）と（２）の設問全てに解答しなさい。

（１）日本の大都市に存在する木造住宅密集地域では、まちづくりの取組みとして、敷地面積で数百 m^2 の規模の「防災小公園」整備が進められている。この防災小公園の M7 級直下型地震発生時の役割や機能について、下記の災害発生からの 3 つの Phase ごとに、それぞれ 300 字程度ずつ、解答しなさい。

Phase I : M7 級直下型地震発生直後期

Phase II : 発災翌日から約 1 週間までの避難生活期

Phase III : 発災 1 ヶ月時点の仮住まい・復旧復興期

（２）前問の Phase I と Phase II について、あなたが解答した役割や機能が、発災時に果たされるために、防災小公園に、平時においてどんな設備や施設整備が考えられるか、解答しなさい。

ある都市において、公共交通機関（公営のバス・地下鉄・新交通システム等）の料金の改定が検討されています。現在の料金は1回の乗車につき300円であり、以下の2つの料金案AとBのどちらがよいか検討されているとします。

案A：乗車料金を200円に引き下げ、多くの市民が公共交通を利用しやすくし、経済活動の活性化を促す。

案B：乗車料金を350円に引き上げ、その収益をインフラ整備（駅などの改修・新規路線の導入等）にあてることで、利便性を向上させる。

公共交通の需要の価格弾力性が-0.3、現在の乗客数が年間100万人であるとき、以下の設問に答えなさい。

（1）案Aまたは案Bを採用したとき、以下を求めなさい。

①案Aまたは案Bを採用したときの乗客数の変化率をそれぞれ求めなさい。計算の過程を記載すること。

②案Aまたは案Bを採用したときの年間の総収入をそれぞれ求めなさい。計算の過程を記載すること。

③公共交通の需要の価格弾力性が低い場合と高い場合で、料金変更が乗客数と収入に与える影響がどのように異なるかについて説明しなさい。

（2）公共交通の料金設定を「公共交通の維持」および「外部性」の視点で検討する場合、以下について答えなさい。ただし、ここでの「外部性」とは「技術的外部性」である。

①「外部性」について説明し、都市の交通に関する「外部性」の例をあげなさい。

②公共交通の料金設定がもたらす影響を「公共交通の維持」および「外部性」の視点で論じなさい。

以下の問いすべてに答えなさい。

問 1

- (1) 「地球温暖化対策の推進に関する法律」において、事業者および地方公共団体をそれぞれ対象として規定されている措置について説明しなさい。
- (2) (1) で説明した措置の課題を指摘したうえで、その解決策として考えられる対応について論じなさい。

問 2 地方公共団体が有する環境影響評価条例の意義と役割について、環境影響評価法との関係を整理したうえで、説明しなさい。

次の各用語について，具体例を示しながらそれぞれ 200～300 字程度で説明せよ。

- (1) 逆選択
- (2) モラルハザード
- (3) クールノー競争
- (4) 不完全情報ゲーム
- (5) 不完備契約

(1)(2)の用語をそれぞれ論ぜよ。なお、各用語の解答は、それぞれ解答用紙10行程度とすること。

(1) 大部屋主義

(2) 権限争議

610

以下の設問全てに解答しなさい。

- (1) 地方自治法が定める地域自治区制度について、その概要を述べたうえで、現状と課題を論じなさい。
- (2) 政府・自治体の政策の展開を研究する上で用いられる「経路依存 (Path Dependence)」の概念について説明しなさい。

問1. 次の文中の [A] ～ [E] について【】内の選択肢の中で最も適切な番号を1つずつ選び、解答用紙に番号を記入しなさい。[F] については、適切な語句を解答用紙に記入しなさい。語句は日本語か英語のいずれかで記入すること。

(1) [A] は半構造化面接法を中心としたフィールドワークを行い、『ハマータウンの野郎ども-学校への反抗・労働への順応』(筑摩書房、1996、英文タイトル: Learning to Labour: How Working Class Kids Get Working Class Jobs. Saxon House, 1977) を発表した。

【1. ウィリス 2. ダンカン 3. パーカー 4. マクラウド】

(2) 他者への評価など調査対象が直接的に回答しづらい内容を質問する場合、電話調査よりも [B] の方が精度の高いデータが得られる。

【1. 面接調査 2. 世論調査 3. 悉皆調査 4. 郵送調査】

(3) イングルハートは物質主義から脱物質主義への価値転換を [C] と説明している。

【1. 静かなる革命 2. 静かな変容 3. 階級闘争の終焉 4. 価値の多元化】

(4) [D] は権威主義的パーソナリティを測定する尺度としてF尺度を提示した。

【1. ホルクハイマー 2. フロム 3. ミルグラム 4. アドルノ】

(5) 松平誠は日本の都市における主要な祝祭を「伝統型」と [E] に分類している。

【1. 解放型 2. 企業型 3. 3F型 4. 合衆型】

(6) ベリーによれば、異文化適応は4タイプに分類される。すなわち、統合 (Integration)、同化 (Assimilation)、分離 (Separation)、[F] である。

問2. 質的比較分析の特徴を簡潔に説明せよ。その際には、以下の語句を必ず全て使用すること。【小規模事例、確率論、体系的、重回帰分析、真理表、因果複雑性、集合論】

問1 予防の三段階（一次予防、二次予防、三次予防）について、各段階の概要と具体事例を説明しなさい。

問2 地域包括ケアシステムとは何か。「日常生活圏域」と「5つの構成要素」について説明しつつ、その目標を述べなさい。

問3 絶対的貧困率と相対的貧困率について説明しなさい。

問4 下記(1)～(4)の理論・概念について、最も関連のある人物名を選択肢の中から1つずつ選び、解答用紙にアルファベットを記入しなさい。

- (1) サクセスフル・エイジング
- (2) プリシード・プロシード・モデル
- (3) 老年的超越
- (4) 生きがい

選択肢

A 神谷	B マーモット	C ロウ	D アンダーセン	E グリーン	F カーステンセン	G トルンスタム
------	---------	------	----------	--------	-----------	----------

問1 以下の文章を読み、空欄 [A] ～ [D] に入る適切な人名を書きなさい。姓のみで構わない。

グローバル化という事象が注目されるようになったのは、主に 1960 年代以降である。グローバル化に関連した著作として、1970 年代から 1980 年代には、[A] による『世界システム論』や [B] による『想像の共同体』などが注目された。

1990 年代以降は、地球規模で環境問題が意識されるようになった。[C] が執筆した『リスク社会（危険社会）』は、近代産業社会の発展に伴い、環境破壊や原発事故など、従来では考えられなかった新たなリスクが顕在化し、人々の生活を脅かすようになった社会について論じた。

また、1990 年代以降はインターネットの発展を背景に地球規模で情報化社会が進展したが、それよりも約 30 年前の 1960 年代に、[D] は情報社会の到来を予測し、「グローバル・ヴィレッジ（地球村）」という表現を用いた。

問2 都市におけるフードデザート（食の砂漠）問題、「買い物難民」に関する以下の設問に答えなさい。

- (1) 「買い物難民」とは何か、説明しなさい。
- (2) 都市では、どのような人々が、どのような理由から「買い物難民」となりやすいか、説明しなさい。
- (3) 上記 (2) で取り上げた人々は、個人レベルで見たときに、「買い物難民」となることでどのような問題に直面するか、説明しなさい。
- (4) 都市におけるフードデザート（食の砂漠）問題を地域レベルでとらえた場合、その問題を構成する地理的要因と社会的要因は何か。ジェントリフィケーションの概念を用いて、社会学的観点から説明しなさい。その際、ジェントリフィケーションとは何か、についても説明すること。